

消化器内科に通院中の患者さんまたはご家族の方へ（臨床研究に関する情報）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、患者さんの診療情報を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名]

上部消化管術後症例の切除不能悪性胆道閉塞に対する EUS 下順行性治療と EUS 下消化管胆管瘻孔形成術の比較検討：多施設共同後方視的コホート研究

[研究機関名・長の氏名] 北海道大学病院 寶金 清博

[研究責任者名・所属] 川久保 和道（消化器内科・助教）

[研究代表機関名・研究代表者名・所属]

岐阜大学医学部附属病院 第 1 内科 岩下 拓司

[共同研究機関名・研究責任者名]

岐阜大学医学部附属病院 第 1 内科 岩下 拓司

東京大学医学部附属病院 消化器内科学 中井 陽介

北海道大学病院 消化器内科 川久保 和道

帝京大学 溝口病院 消化器内科 安田 一朗

東京医科大学 消化器内科 糸井 隆夫

Asan Medical Center, Gastroenterology, Assistant Professor Do Hyun Park

[研究の目的]

上部消化管術後症例の悪性胆道閉塞の治療は、以前は経皮的なドレナージが行われていたが、特殊な内視鏡の登場により経乳頭的にドレナージを施行することが可能となりました。しかしながら、小腸内視鏡を使用しても、スコープの操作性が通常の方法よりも劣り、処置具の選択枝も限られるために、その成功率は満足いくものではありません。

近年、超音波内視鏡下胆管ドレナージの有用性が報告されています。消化管から胆管を穿刺し閉塞部に順行性にステントを留置する順行性治療 1 と胆管を穿刺後に穿刺部にステントを留置する胆管消化管瘻孔形成術 2 の 2 種類があります。どちらの処置も有用とされていますが比較検討の報告はないために、今回比較検討を行うことを本研究の目的とします。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2012年4月～2017年3月に北海道大学消化器内科において、上部消化管術後の悪性胆管閉塞に対して、超音波内視鏡下に胆管ドレナージを受けられた方

○利用するカルテ情報

診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果、血液検査、画像検査、処置内容、偶発症、予後

上記のカルテ情報は、岐阜大学に、電子的配信で送付します。

[研究実施期間] 実施許可日～西暦2018年3月31日

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

* 上記の研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道札幌市北14条西5丁目

北海道大学病院消化器内科 担当医師 川久保 和道

電話 011-716-1161 FAX 011-706-7867